

まちの財政「本当に大丈夫？」

シリーズ 第2話 「財政の健康診断？」



町の財政を診断するために、法令で健全化判断比率の公表が義務付けられています。健全化判断比率（※）の項目は、実質公債費比率、将来負担比率、実質赤字比率、連結実質赤字比率の4つの指標であり、全国どこの自治体でも公表されています。本町の平成27年度決算では、将来負担比率、両赤字比率は発生していませんので、ここでは実質公債費比率について説明します。

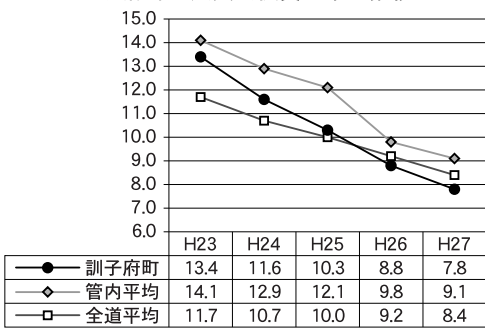
※健全化判断比率とは？

- 地方公共団体の財政状況を統一的な指標で明らかにし、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための実質公債費比率、将来負担比率、実質赤字比率、連結実質赤字比率の4つの指標のこと。
- **実質公債費比率**・・・年間収入に対し、借金の返済額が占める割合を示すもの。
 - **将来負担比率**・・・今後返済が必要な借金などの総額が、収入の何倍かを示すもの。（数値が発生しないのは、将来の負担額が現状の貯金などで賄えるということです。）
 - **実質赤字比率**・・・一番身近な財布である一般会計などが赤字かどうか示すもの。
 - **連結実質赤字比率**・・・一般会計、特別会計、水道事業会計の3つの財布全体で赤字かどうか示すもの。

借金の返済額は妥当か？

借金の返済額が身の丈に合ったものかを判断する指標である「実質公債費比率」は7.8%。家計に例えると年収に占める借金返済額の割合となります。

訓子府町の実質公債費比率の推移

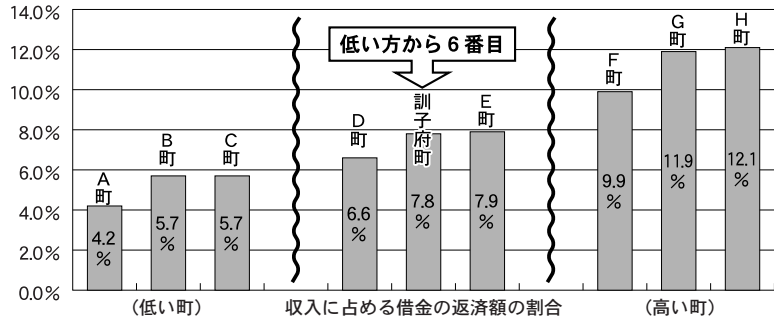


実質公債費比率は、過去の投資の償還が終了してきていることや近年では国や道の有利な財源、交付税措置のある借入金をうまく活用したり、投資を抑えたりすることで数値が改善しています。管内の14町では低い方から6番目、全道の131町では39番目となっています。グラフからは平均値より下位に位置しています。

法令上、実質公債費比率が25%以上35%未満は早期健全化基準という黄色信号の状態、35%以上となると財政再生基準という赤色信号状態になります。

実質公債費比率は25%～35% 黄色信号
35%以上 赤色信号

オホーツク管内14町の実質公債費比率の比較



次号では「貯金と借金」についてお知らせします。

第6次訓子府町総合計画

「ちょっといいね！」がたくさんあるまち くんねっぴ

シリーズ①～安心して「子ども」を産み、育てられるまちづくり～

第6次訓子府町総合計画では、7つの基本目標を掲げ、将来像の実現に向けた基本計画が定められています。今月号では、基本目標1「安心して『子ども』を産み、育てられるまちづくり」の紹介をします。

1. 子育て支援

- ① 不妊、不育治療費助成などの周産期対策をはじめ、子育てに関する情報発信や相談体制、乳幼児健康診査、子ども医療費、任意予防接種費用に対する助成などの「子どもを育てる環境整備」の充実を図ります。
- ② 児童相談所などの関係機関と連携した相談体制、生活の安定と就業や自立を促進し「ひとり親家庭への支援」の充実を図ります。
- ③ 子育て講座などを通じ、保護者への情報提供と保護者同士の交流を図るほか、発達支援が必要な子どもへの支援、一時預かり、ファミリーサポートなどにより子育てしやすい環境を整備するなど「子育て支援センター機能」の充実を図ります。
- ④ 保護者の就労形態の変化に対応した支援体制、異世代や異年齢の活動内容の充実を図り、みつばちクラブ、社会教育部門と連携した体験活動など「児童センター機能、放課後子ども教室」の推進を図ります。



2. 認定こども園



- ① 希望するすべての子どもが入園できる体制整備をはじめ、0歳から5歳児の異年齢教育・保育を通じた社会性の育成、自園調理による地元農畜産物を活用した食育の推進、発達につまずきが見られる子どもの早期発見・早期療育の支援、行事や計画などにおける保護者との連携など「教育・保育環境」の充実を図ります。
- ② 園開放を通じ、地域住民や他機関との交流をはじめ、小中学校、子育て支援センターと連携した「地域における子育て支援」の充実を図ります。

重点プロジェクト

人を育てるまちプロジェクト

第6次訓子府町総合計画では、前期5年間に3つの重点プロジェクトを計画しています。重点プロジェクトの項目にある「子どもたちの成長を支える」ために、希望するすべての子どもが入園できる体制、食育の推進、小中学校との連携強化などの「認定こども園の機能充実」、「子育て支援センター・児童センターの機能充実」、「多子世帯の認定こども園保育料の負担軽減」、「任意予防接種費用・中学生までの医療費助成」など、子どもの教育・保育の充実と子育て世帯への経済的支援を計画しています。

来月号では、基本計画2「強い『産業』で活力を生み出すまちづくり」について紹介します。

